

## 2. 実践研究のねらい

本調査研究事業のモデル校として指定する府立富田林中学校・高等学校は府立学校で初の併設型中高一貫校として平成 29 年 4 月にスタートした。本年度、併設した中学校が開校 3 年目を迎え、中 1 から高 3 までの全学年が揃い、中高一貫校としての学校体が完成した。

同校は、「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材の育成」を教育目標とし、育みたい 3 つの資質を、①グローバルな視野とコミュニケーション力、②論理的思考力と課題発見・解決能力、③社会貢献意識と地域愛としている。

本事業にかかる取組みとしては、「社会貢献意識と地域愛」をベースに、基礎期（中 1・2）と充実期（中 3・高 1）では学力向上に向けた取組みや英語教育・国際交流、科学教育を中心とした地域における探究活動に力を入れて取り組むことにより、「グローバルな視野とコミュニケーション力」、「論理的思考力と課題発見・解決能力」の素地の醸成に努め、発展期（高 2・3）においては、基礎期・充実期で身につけた力を活用して自分の思いや考えを広く発信し、さらに研究を深めて自己の進路実現につなげていける生徒の育成をめざしている。

平成 30 年度は事務局（連携コーディネーター等）が中心となり本事業を展開してきた。その結果、広域外部サポーターとのマッチングや「熟議」の開催など今後のコミュニティ・スクール運営の基礎が構築できた。ただ、今後取組みを定着させ持続可能にしていくためには、活動内容を充実することに加え、さまざまな立場の人材が協働し、より強固な仕組みを整えていくことが必要となる。そのためには、一過性のイベントにすることなく、関係団体と学校との間にウィンウィンの関係を構築することが必要である。

そのことを踏まえ、本年度については広域外部サポーターとの連携・協働による「効果的な教育実践」を重点に取組みを進める。

また、本府は、平成 30 年度より大阪府立学校全校において学校運営協議会を設置した。同校をモデル校として位置付け、コミュニティ・スクールのしくみを活用した教育目標の実現が可能となるプログラム（プラン）の策定をめざすことで府全体のグレードアップを図る。成果については全国に発信していく。